

厳冬期の風は厳しかった

## 朝日連峰 赤見堂岳 山スキー (中退)

日本海側を中心に早いうちからまとまった雪が降った 2017-18 シーズン。寡雪で転進を余儀なくされた昨年末とは大違いだ。

不安定な雪から時間の読みにくい厳冬期は、山頂往復が定石。3 日間の山切符があったので2本狙いたかったが、冬型の気圧配置で強烈な寒気が入ってきているため、二兎を追わず、予備日1日として、朝日連峰の前衛、赤見堂岳を目指した。朝日連峰中心部へと続く珠玉の稜線が待っているはずだった。

【日程】

2017年12月29日(金)  
~12月31日(日)

【メンバー】

森山(L)、佐藤K、  
野口、長山

【地形図】

赤見堂岳

【記】森山

### 12月29日(金) : 晴れのち雪

月山ICを下りると背丈ほども雪が積もっていた。大井沢集落に着いたが、雪で適当な駐車スペースがない。家の前の敷地を広く除雪していたお宅にお願いして停めさせてもらった。地元の人と話しはじめると、耕至さんが瞬時に土地のことばに早変わりする。ここは耕至さんが自身の故郷。これから登る赤見堂岳も耕至さんが出してくれた周辺エリアの候補から選んだものだった。

小桧原沢まで戻り、左岸尾根に取り付く。ブナの細い木が少しうるさく狭い尾根だが、細かい藪はすでに雪の下に埋もれていて、スキー登高に支障はない。積雪のベースができていたので、ここ数日に積もった雪を踏んでも、底なしに潜ることもない。

歩き出しこそ晴れていたが、いつしか雪が降りはじめた。ウェアに触れるとすぐに水滴に変わる湿った雪だ。標高を上げるとラッセルは徐々に深くなり、膝くらいになってきた。あわせるかのように、ブナの幹は太く、登る尾根は広がってきた。ブナの林は樹幹の広く雪質が期待できるので、山スキーと相性がいい。根っからの滑り好きの長山さんは、良さ気な斜面がないかと、しきりと物色しながら登っていた。



小桧原沢左岸尾根の下部の登高

上の方では風の音が強くなっている。登りすぎると樹林が切れて風に叩かれそうなので、1100m付近で太いブナの木の脇を整えて幕とした。

### 12月30日(土) : 曇り

夜の間、いくらかの降雪と風に飛ばされてきた雪で、テント周りは雪が積もった。朝になって雪は止んだが、シュラフから出る気にならない風の音。ラジオの天気予報は午後からの回復を告げていたが、山で風が収まるのは何時頃からだろうか。早発ちしても意味がない。ゆっくり朝食をとってから歩き出す。

標高1200mくらいまで登ると背の高い樹はなく、凍てつく風で目出し帽がないとほほが痛い。時折ガスで視界も悪く、赤竹を何本か打ちながら石見堂岳に立つ。平たいので山頂ははっきりしない。晴れていれば心躍るであろう純白のたおやかな稜線はただ茫としている。

さらに西進するも、スタンスを広めにとっていないと倒されそうになるくらいの風に正面から向かうので厳しい。はっきり言って無理。

南側に斜面を20mくらい下り、回復の兆しがみられるかどうか、みんなでツェルトを被って待つことにした。明るいうちにテン場に戻るにはここから赤見堂岳へアタックするリミットを正午として小一時間待った。

しかし、風が弱まる気配はなかった。追い立てられるようにテントへ戻る。

せつかく時間があるので、テン場からすぐ下の手頃な斜面を空身で滑って遊ぶことにした。昨日の登高のときに良さそうだと話していた適度な斜度のあるブナ林。日本海側の湿雪でも気温が低いから雪は重たくない。良い。方向をずらして2本楽しんだ。

口惜しいことに、予報の通り、夜になると星空になった。街の明かりも見えた。

## 12月31日（日）：晴れ

最終日は、月山や奥羽山脈まで見晴らせる穏やかな天気だった。一日ずれてくれていると・・・。

往路に戻る。広くない尾根で小ピークもちよいちよいあるので、大斜面を一気に滑降とはいかない。それでも、樹々の間を縫ってどこでターンをするか、思ったように上手くターンを連続できるか、ツリーランも山スキーの醍醐味のひとつだと思う。

3時間で大井沢に戻った。駐車させてくださった方は、それだけでもありがたいのに、車に載った雪を払ってくれていた。深く感謝。ご挨拶をしてから寒河江の温泉に向かった。

今回は赤見堂岳にしぼって2泊したのに山頂に立てなかった。天気を中心に組み立てて、3日目の未明にヘッドランプ行動すれば踏めない山頂ではなかったかもしれない。チャンスの少ない厳しい時期にピークを狙うなら、そういう引出しも必要なのかもしれない。

### 【行程】

12/29 大井沢集落発 (10:30) ～標高757m小ピーク (13:15) ～標高951m小ピーク (14:20)

～標高1100付近 (15:30) C1

12/30 C1 (9:03) ～石見堂岳 (10:45) ～ツェルト休憩 (11:00～12:00) ～C1 (13:15)

12/31 C1 (7:43) ～大井沢集落 (10:45)



強風の石見堂岳



先に進むか思案中